

日本人は褒められることに慣れていません。だから私たちは極力自分の内側を見せない、本音を言わないと なってしまっています。私たちには自信はないでも心の片隅で「できる」と思っているのです。自信とは本来 比較するものではないのですが、自信がなくなってくると「あのよりここはマシ」となります。これでは人 をよく見る目はできません。自分よりよい人を見たら嫉妬心、悪い人に対しては見下す・・・神は私たちを比較 対象で見えていません。隣の人はあなたと同じように創られています。それぞれの人生が進むにあたって大切なのは比較ではなく命綱があるかどうかです。それぞれの人生は違います。ロッククライミング（山登り）を 知っていますか。今は何でもラクにとり、私たちは何でも人のせいにしがちですが山を登っている人たちに、 それはできません。だから命綱をつけています。私たちの人生はこれなのです。神は勝手に登れとは言ってい ません。命綱をつけ、失敗をしたら必ず助けてくれます。山を登る人たちは、大自然の中で様々な危険と対峙 する中、自分がなんと弱くて小さいかということを知ります。聖書でも「あなたの小ささ、弱さを知れ」と言 っています。それを知っていれば強くなるのです。そうすれば自分以外の人のすばらしさを知り、それを利用 するのです。しかし弱い人は助けを求めず全部自分でしようとしてしまいます。そうすると失敗するのが嫌だ から自分の能力を超えたことをしない、やれることもやらない、好きなことだけする、こういう状況になっ てしまいます。しかし信仰を持って進む人には失敗も恐れもありません。あなたのまわりには誘惑し落としてや ろうとするものがあると思いますが、命綱がついていれば大丈夫です。（創28：10～）有名なヤコブの階段 という箇所です。兄であるエサウがヤコブにレンズ豆で長子の権利を売った後、実際にそうなり、怒ったエサ ウを恐れて逃げていた時のことです。「見よ。わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなた を守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなた を捨てない。」（15）ヤコブは野宿の中にあっても守られていました。あなたも守られているのです。神の守り は縛りではありません。「あなたの行くところどこでも与えている」神様はあなたの道に前もって礎を築き、 進むべき道を整えてイエス様があなたと共に先を歩み、あなたが通るところは全て安全のようにしているの です。（創28：14、15）ヤコブに対してこのような約束をしています。「ヤコブは眠りからさめて、「まことに主がこの所におられるのに、私はそれを知らなかった。」と言った。」（15）「聞いたけど忘れた」こんなこ とが多くないですか。ヤコブは違ったのです。神がいることに気付いていますか。あなたはずっと守られてい るのです。神はずっと引き上げようと守られています。大きな失敗をする前に小さな事を通して教え、その先 にある大きな失敗を回避しているのです。（詩121：1～）落ち込んだとき私たちは下を向きがちですが、下 を向けば悪魔はあなたの足をすくいます。今のことしか見えなくなり、先が見えなくなります。しかし上を向 けば自分の小ささを知ることができるのです。神様はまどろむことありません。神の助けは翼のようなもの です。あなたの状況に応じてやすい場所に置かれています。いつも守られているのです。不安なことなど 色々あるでしょうが、神の計画に歩むものには命綱をつけて落ちないように、そして進む勇気を与えている のです。失敗して落ち込むとしたら命綱がついていません。ミスは恥ずかしいことではありません。間違っ ているのに切り返さないことがよくないのです。大切なことは守りがある事に気付くことと、それと気付いたら 素直に戻ることです。神様はいろんなところから伝えます。後はあなたが気付くかどうかです。「主は、すべ てのわざわいから、あなたを守り、あなたのいのちを守られる。」（7）災いもありますが命を守っているの です。守りのうちに進むには①石の枕。これは御言葉です。一日を、御言葉をもとに振り返り、あなたの頭を 休めるようにするという事です。②石の柱。約束です。「忘れた」はもうなしです。石の枕を積み上げてち ょうどよい高さになるのはこの世を終えるときです。③油を注ぐ。油とは聖霊のことであり、そのためには礼 拝をするということです。礼拝とは儀式ではなく語らいです。「それからヤコブは誓願を立てて言った。「神 が私とともにおられ、私が行くこの旅路で私を守ってくださり、私に食べるパンと着る着物を賜わり、私が無 事に父の家に帰ることができ、主が私の神となってくくださるので、私が石の柱として立てたこの石は神の家と なり、すべてあなたが私に賜わる物の十分の一を私は必ずあなたにささげます。」（創28：20～22）ヤコブ 自身がその約束を信じぬために誓願を立てたのです。自分自身で神の前に出て誓願を立ててやってください。 あなたの悩みや葛藤もあるでしょうが守られ導かれていることを知ってください。悩むのではなくこれから進 む道を考えてください。今日から後悔や落ち込むのではなく神の前で前進していきましょう。（要約者：岩崎 祥誉）